

職藝実物実習教材
MINI
建築づくり

SHOKUGEI_Wooden MINI Architecture

職藝学院がめざす木造建築
は

自然を尊重し、人に優しく、地球環境に負荷をかけない
自然素材が中心の“木組みによる伝統構法の建築”です



園藝師

建具大工

建築大工

家具大工

造園師



大工と庭師の学校
職藝学院

TOYAMA International College of Crafts & Arts

建築職藝専門課程 **建築大工・建具大工・家具大工** / 環境職藝専門課程 **造園師・園藝師**

実物実習教材とは

職藝学院では、職人教育の基礎基本を日本の生活文化に根ざした大工と庭師の伝統技術に据え、“実際の建物づくり・庭づくり”を 実物実習教材 としてカリキュラムに組み込んでいます。一般の皆様などからご提供いただく実物教材を通して、学生達は職人仕事の多様な技と実践的知識及び職人マナーを緊張感の中で学んでいます。

開ヶ丘 集落ごみステーション（富山市）



用途 地域ごみステーション
 構造 木造軸組構法、平家建て・平入
 真壁造り、切妻屋根
 規模 床面積 6.61㎡（2.0坪）
 桁行3,636mm×梁間1,818mm
 仕上 基礎=ベタ基礎
 屋根=金属板葺
 外壁=板張、浸透性塗装
 建具=引分け格子戸
 内部=床 土間コンクリート
 内壁 外壁表し
 天井 野地板表し
 設計 建築設計事務所

東黒牧 集落ごみステーション（富山市）



用途 地域ごみステーション
 構造 木造軸組構法、平家建て・平入
 真壁造り、切妻屋根
 規模 床面積 4.96㎡（1.5坪）
 桁行2,727mm×梁間1,818mm
 仕様 基礎=独立基礎
 屋根=金属板A T葺
 外壁=板張、浸透性塗装
 建具=引違い格子戸
 内部=床 板張
 内壁 外壁表し
 天井 野地板表し
 設計 職藝学院（進級製作）

Ho邸 畑小屋（富山市）



用途 畑仕事道具庫
 構造 木造軸組構法、平家建て・妻入
 真壁造り、切妻屋根・出入口庇
 規模 床面積 4.96㎡（1.5坪）
 桁行2,727mm×梁間1,818mm
 仕様 基礎=独立基礎
 屋根=金属波板葺
 外壁=板張、浸透性塗装
 建具=片引き板戸、無双窓
 内部=床 板張
 内壁 外壁表し
 天井 野地板表し
 設計 職藝学院（進級製作）

Yo邸 物置 (富山市)



用途 物置
構造 木造軸組構法、平家建て・平入
真壁造り、片流れ屋根
規模 床面積 3.67㎡ (1.1坪)
桁行2,424mm × 梁間1,515mm
仕様 基礎=ベタ基礎
屋根=金属板AT葺
外壁=板張、浸透性塗装
建具=引込み板戸
内部=床 土間コンクリート
内壁 外壁表し
天井 野地板表し
設計 建築設計事務所

Na邸 物置 (富山市)



用途 物置
構造 木造軸組構法、平家建て・妻入
真壁造り、切妻屋根
規模 床面積 6.61㎡ (2.0坪)
桁行1,818mm × 梁間3,636mm
仕様 基礎=ベタ基礎
屋根=金属板AT葺
外壁=板張、浸透性塗装
建具=引わけ格子戸、引違窓
内部=床 土間コンクリート
内壁 外壁表し
天井 野地板表し
設計 職藝学院 (進級製作)

天真寺道具蔵 (黒部市)



用途 収蔵庫
構造 木造軸組構法、平家建て・平入
真壁造り、切妻起り屋根
規模 床面積 9.92㎡ (3.0坪)
桁行5,454mm × 梁間1,818mm
仕様 基礎=ベタ基礎
屋根=金属板葺
外壁=板張、浸透性塗装、漆喰塗り
建具=引違竹格子戸、引違格子窓
内部=床 土間コン、三和土
内壁 外壁表し
天井 野地板表し
設計 職藝学院

実物実習教材の進め方

1. 実習教材提供のご相談

実物実習教材の進め方をご説明し、ご理解いただいた上で、ご提供いただく建築の目的や用途、建築場所、ご希望の規模(床面積)・予算などの打合せからスタートします。

2. 設計条件の整理

敷地や法的調査などを含めて設計条件の整理を行います。敷地によっては、木造で建築できない場合、面積制限を受ける場合などがあり、床面積が 10 m²を超える場合には所定の手続きが必要になることもあります。

3. 設計・見積・工事契約

打合せを行いながら設計を進めます。案が煮詰まった段階で工事の見積りや進め方についてもご理解を得て進めます。尚、設計や手続については実費を申し受けます。

4. 実物実習の実施

学内での実習(材料手配、木取り・墨付、加工・製作、仮組みなど)を経て、現地で組立て施工して完成します。尚、実習におけるスタッフに関する諸経費については実費を申し受けますが、学生に関わる費用はいただきません。

5. 工事費用の構成

小規模建築の工事費は、基礎、木造躯体、屋根、内外装、建具、その他の工事、及び発生材処分などの仮設費、そして諸経費に分けて考えることができます。

6. 維持管理について

建物を長持ちさせて快適に使用するには維持管理が重要です。完成引渡し後についても、必要に応じてご遠慮なくご相談下さい。

実物実習教材ご提供についてのお願い

1. ご提供いただく建築づくりは実習授業における実物教材として活用させていただきます

実物教材への取り組みは、プロである本学院マイスター等が指導に全力を尽くしますが、学生達は“学びの途上にある”ということについてご理解をお願い致します。

2. 実物実習は原則として授業時間割にもとづいて進めます

本学院の実習教育は限られた時間の中で指導しながら進めますので、実習期間につきまちはゆとりのある設定にご協力いただければ幸いです。

3. 建築職藝専門課程では建築や家具・建具の大工技術と知識を学びます

建築本体・建具・家具以外の工事につきましては、本学院の学外支援者に協力いただくことがあります。またご希望により教材提供の皆様とも協同作業を行います。



〒930 - 1298 富山県富山市東黒牧 298 (問合せ 9:00~17:00 土曜 日曜 祭日を除く)

TEL (076) 483 - 8228 FAX (076) 483 - 8222

E-mail info@shokugei.ac.jp URL www.shokugei.ac.jp



携帯QRコード